

自転車整理の仕事が終わって

先月末、5年間にわたった駅前の自転車整理の仕事が終わりました。

「へえ、清水君が自転車整理の仕事をしているなんて驚きだねえ」「なんでまた、キャリアのある君がそんな仕事をしているんだい？」——私をよく知る友人からときどきこんな言葉を投げかけられたこともありました。

「楽しくやっているよ。健康にもすこぶるいいし」。ついでに「あなたもシルバー人材センターに入って働いてみない？」なんてセンターの広報部会長の立場から誘いの言葉をかけることもありました。

自分のことで恐縮ですが、たしかに特派員や留学はなかなか経験しがたいキャリアーかもしれない。でも、人生は有為転変するものです。定年後のスペイン留学から帰国後してまもなく、私は体調を崩しうつになり人生のどん底状態に陥ったのです。いくつもの有望な仕事先も辞退せざるを得ませんでした。幸い1年ほどで全快したのですが、新たに仕事を探し始めたころはもうありません。そのとき「働く意欲のある人は誰でも」と“拾ってくれた”（と自分は感じています）のが高齢者向けの仕事を紹介しているシルバー人材センターだったのです。

入会や就業についての説明会、簡単な試験と面接があって、私はJR昭島駅近くの駐輪場で働くことになりました。朝6時、現場に到着するとまず掃除とその日の作業準備です。前日から残っている自転車の整頓。料金未納の自転車への札付け。紙くずや空缶、タバコの吸殻も落ちています。箒と塵取りを手にしながら最初は“自分がこんなことをしているのかな？”と一瞬思うことがありました。でもその思いはすぐに消えていきました。職業に貴賤なし！市民の皆さんを最前線で支える大切な場とわかってきたからです。

忙しくなるのは通勤客の増える7時過ぎから8時半ころまで。その日の料金(100円)を払う一時利用者と、自転車にシールが貼ってある定期利用者の更新手続きへの対応です。



電車の時刻に間に合わせるために、分、秒を急ぐ人。「まだなの？」・・・なかにはイライラ感を顔に表す人も出てきます。そんな時、「朝は混むってわかっているんだから、その時間を見込んでもっと早めに家を出てくれればいいのに！」なんて内心で思いかけながらも、「いやいや、お客様なのだから」と最善のサービスを心がけるわけです。

「おはようございまーす」——こちらが声をかける前に、向こうから大きな声で挨拶をしてくれる人がいます。こちらが挨拶をしても知らん顔の人もいます。なかには「いつもご苦労さまですねえ」と旅行帰りのおみやげ菓子を届けてくれる婦人もいます。

駐輪違反の自転車も出てきます。小さな子供やお年寄りもやってきます。そんなとき、

規則にのっとりながらも“正義感派”と“人情肌派”によって管理員の対応が少々異なってくるのも、人の心の反映なのでしょう。はからずも、いろいろな人の断面が見られて、これも社会勉強かな、なんて・・・。

早番、遅番と交代制で終業は午後 8 時。利用者への親切なサービスと共に、各種の伝票やシール、お金の集計が合って仕事の完結となります。

現場では、他のシルバー会員にも仕事の機会を回すために「就業 5 年」との規定があります。私も先月その規定に当たったのです。体を動かすことと大きな声で挨拶するのが健康によかったこと、最前線の市民との接触から刺激をもらい、高校生からは若さをもたらったことに感謝しています。更にそこでい



ただいた配分金（センターでは給与とは言わない）を、世界文学紀行の旅費に回すことができたのは望外の幸せでした。

自分の前途がまったく見えなかったときに就業の機会を与えてくれたことに感謝、これかも引き続き理事また広報部会長として、できる貢献をしていきたいと考えているところです。